

主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導方法の工夫  
～子どもの実態に応じた指導方法の工夫を目指して～

学力向上推進員 委員 【校長】 【教頭】 【教務】  
【研修担当】 【各学年担当】

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識を問う問いかけには、答えることができる児童が多い。 ●児童の学力差が見られる。	①当該学年の、基礎的・基本的な知識・技能を概ね習得する。 ②個々の学力に応じた課題に取り組むことができる。	・週3回のモジュールの時間を活用し、発達段階や個別の課題に応じた反復学習やミニテスト、読書の時間を確保する。 ・個々の特性やつまづきを把握し、個に応じた目標の設定や指導方法の工夫を学習中に行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○モデルを示すことで、自分の思いや考えを表現できるようになってきている。 ●身に付けた知識や技能を他の学習や生活の場面で活用することが難しい。	①目的や課題に応じて、根拠や理由を明らかにしながら自分の意見を出し合い、深め合うことができる。 ②身に付けた知識・技能を他の学習や生活の場面で活用することができる。	・表現の仕方のモデルを示し、繰り返し自分の考えを伝え合う場面を設ける。 ・学習の系統性を意識し、問題解決に向けて知識・技能を活用して考える時間を設ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習規律を守り、与えられた課題に真面目に取り組むことができる。 ●自らの学習課題を把握し、解決できるように取り組むことは十分ではない。	①自らの学習課題を把握し、解決方法を選び、取り組むことができる。	・学習規律(「チャイム着席」「学習の準備」「話す聞く態度)」の指導を徹底する。 ・毎時間の学習課題の解決に対する見通しをもたせる。また、学習の最後には振り返りの機会も設ける。			

令和7年度 学力向上ロードマップ

